

川崎哲也*：伊吹山に産するサクラ属の一新雑種

Tetsuya KAWASAKI*：A new hybrid of *Prunus*
from Mt. Ibuki, Prov. Ohmi

標高 1377 m の伊吹山は、その中腹以上は草本帯であるが、山麓は森林となっており、この森林地帯は、自然に近い状態の残されている所が多い。これらの山麓の落葉広葉樹林中には、ヤマザクラとカスミザクラが多く、そのほかにキンキマメザクラおよびその雑種と思われるものが点在する。また、栽培のものとしてはソメイヨシノが多い。

これらのサクラの花期についてみると、キンキマメザクラの標準的な型のものももっとも早く、4月上旬に開花し始め、続いてキンキマメザクラとヤマザクラの中間の形質を持つものが4月中旬より少し前に開花する。その後、わずかにおくれて栽培のソメイヨシノ、ヤマザクラと続き、カスミザクラのグループが最後で4月下旬頃開花する。カスミザクラが開花する頃には他のサクラはほとんど散ってしまっており、キンキマメザクラ類似のものはすでに葉がすっかり伸びきった状態となっている。

これらのサクラのうち、キンキマメザクラについて、1965年から現在まで数回にわたって調査してみたところ、キンキマメザクラの基本的な型の範ちゅうを逸脱し、しかもヤマザクラの形質を兼ね具えたような個体が、それほど多くはないが点々として存在することがわかってきた。これらキンキマメザクラとヤマザクラの中間の形質を持つ個体はかなり変異の幅が大きく、どちらかといえばキンキマメザクラに比較的近い形質を持つものが多く、中には非常にキンキマメザクラ寄りのものがみられる。ここでは、この両種の形質を非常によく兼ね具え、ほぼ中間に位置するものと思われる個体を選び、これをキンキマメザクラとヤマザクラの雑種と考えて、**キンキヤマメザクラ**の和名を付して報告しておきたい。

このサクラと、両方の親と推定されるキンキマメザクラおよびヤマザクラの三者の比較においてそれぞれの特徴をみてみると、つぎのとおりである。まず、このサクラはやや高木状となるが、枝は繊細で、キンキマメザクラとほとんど変わらない。葉は開花時にやや伸び出るが、これはヤマザクラの方に近い形質である。ヤマザクラでは通常開花時に葉がよく伸びているのが普通であって、逆にキンキマメザクラでは通常開花時には葉はあまり伸び出していないのが普通である。この点に関しては両種とも変異の幅がかなりあるので、個体によっては、この程度のものはヤマザクラにもキンキマ

* 埼玉県浦和市立大谷場中学校、Ohyaba Lower Secondary School, Urawa City, Saitama Pref.

メザクラにもみられる。しかし、両種の一般的な型からいえば、中間程度あるいはややヤマザクラ寄りの形質とみてよい。

葉芽および花芽のりん片は、大きさの点ではキンキマメザクラに比較して大きく、ヤマザクラのそれに近い。またりん片が紅赤色を呈するのは一般にヤマザクラに多い特徴であって、りん片の性質は全体としてかなりヤマザクラに近いものとみることができる。花卉の大きさは、キンキマメザクラの一般的な型のものよりは大きく、ヤマザクラに近い。もっとも、ヤマザクラの中にも、個体によってはこれより小さいばあいもあり、またキンキマメザクラの方にもこの程度の大きさのものもみられる。しかし、ヤマザクラの通常の型のものでは、この程度かまたはこれより大きいのが普通であり、その他の点からみても、花卉はヤマザクラに近い性質を持っているといえる。がく筒は長さについてみればキンキマメザクラとほぼひとしく、ヤマザクラよりはかなり長い。また、基部がやや細く、逆に上部において多少広がる傾向があるのは、ヤマザクラに似る点である。すなわち、形においてはヤマザクラの影響があらわれており、長さを含めて全体の大きさは、キンキマメザクラに近いといえることができるが、全体としては、キンキマメザクラのがく筒の特徴がよくあらわれているとみてよい。成葉の裏面が白色を帯びるのは、ヤマザクラから導入された形質であって、その色はほぼヤマザクラと同様である。

葉の鋸歯の大きさや形は両者のほぼ中間の状態を示す。すなわちやや欠刻状の重鋸歯で、ヤマザクラよりは粗であり、キンキマメザクラよりは細かい。各部分の毛の量はキンキマメザクラと比較して量的に少なくなっており、ヤマザクラとの中間程度である。蜜腺は小さくて、通常は葉身の基部にあるが、時に葉柄の上端に位置することもある。果実は非常に少ない。もともとサクラ類では雑種起原のものが必ずしも不稔とはかぎらないが、一応雑種起原のものであることを示唆しているものとみてよいであろう。

このサクラは、関東西部南部および中部地方太平洋側の一部にみられるマメザクラとヤマザクラの雑種であるところのヤママメザクラ *Prunus × affinis* Makino に対比されるべきものであり、ヤママメザクラが多型であるように、よく調査すればいろいろな型のものが出てくるものと思われる。伊吹山には、もとよりマメザクラは分布していないので、このサクラはキンキマメザクラとヤマザクラが自然に交雑したものと考えられ、マメザクラとは関係がない。また、キンキマメザクラとヤマザクラの分布が重なっている地方では同様のものが存在している可能性がある。現在までのところ、私は兵庫県の北部でこれと同じと思われるものをみているし、久保田秀夫氏のご教示によれば長野県内でもこの両種間の雑種と思われるものがみられるとのことである。キンキマメザクラの個体数が多くてヤマザクラが分布している富山県、石川県あたりでも調査が進んだ段階で発見される可能性があると考えられる。

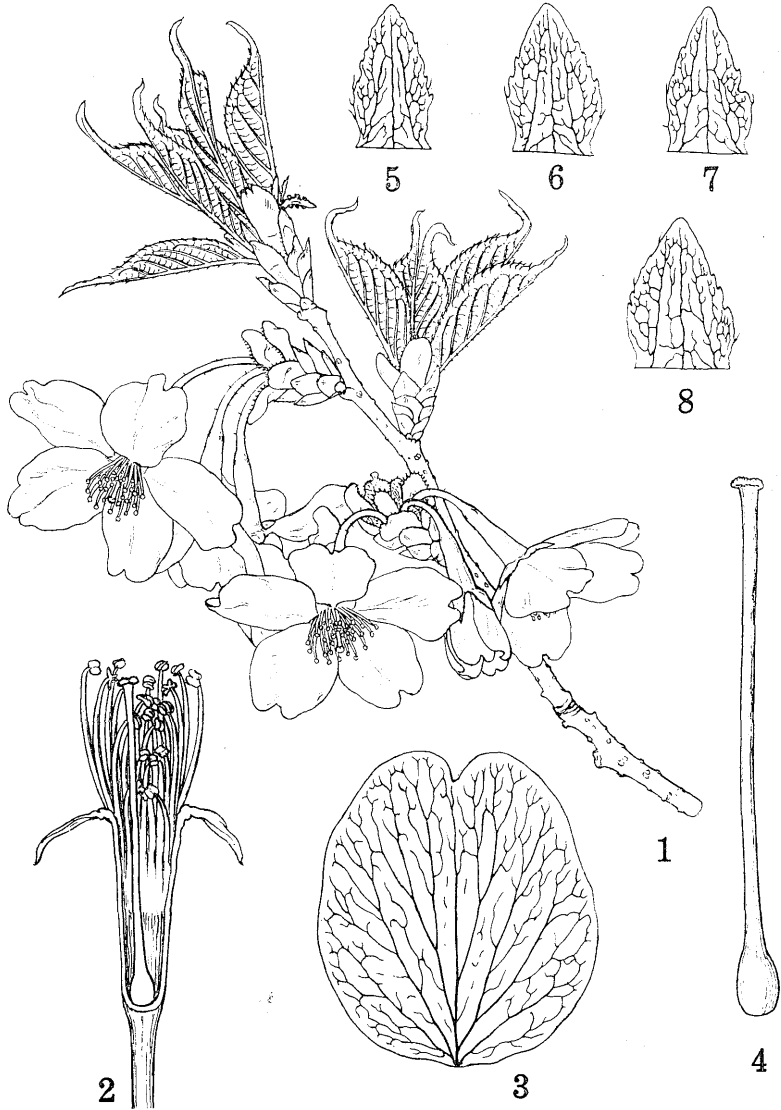


Fig. 1. *Prunus x pseudaffinis* T. Kawasaki 1. Ramusculus florifer $\times 1$. 2. Sectio longitudinalis floris sine petalis $\times 3$. 3. Petalum $\times 3$. 4. Pistillum $\times 5$. 5-8. Calycis lobi $\times 5$.

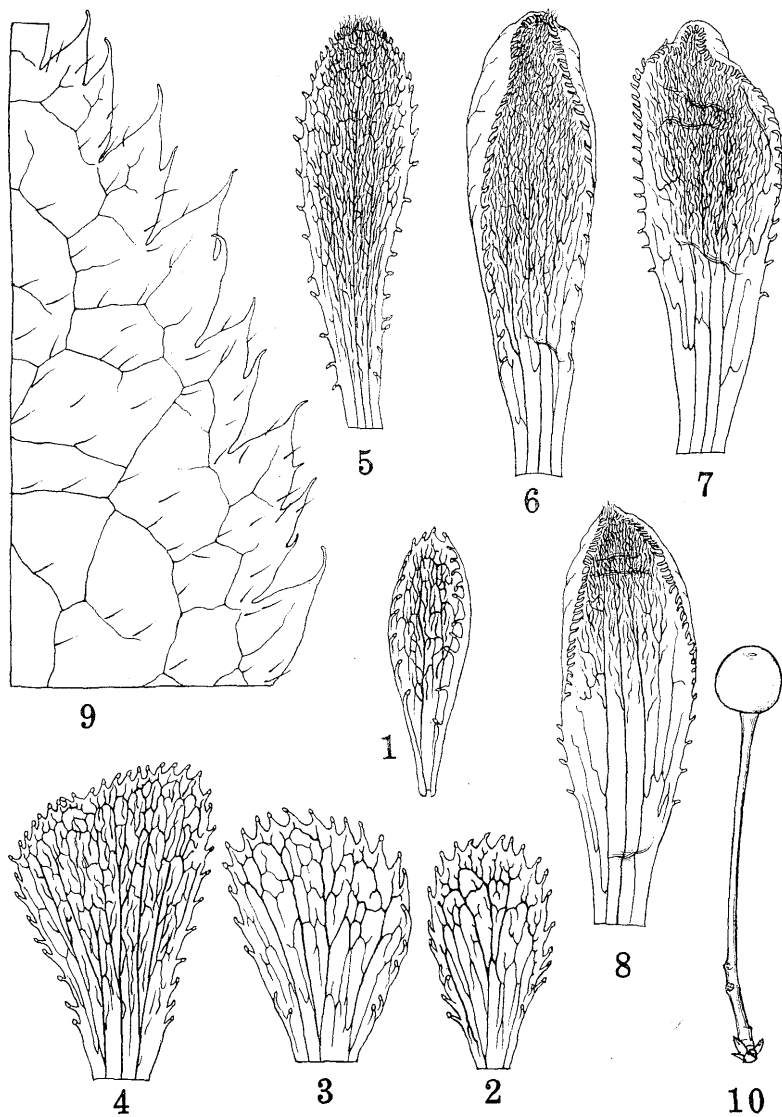


Fig. 2. *Prunus x pseudaffinis* T. Kawasaki 1-4. Bracteae $\times 5$. 5-8. Squamulae gemmarum floriferarum $\times 5$. 9. Pars marginis foli adulti $\times 5$. 10. Drupa $\times 1$.

* * * *

Prunus (Sargentiella) × **pseudaffinis** T. Kawasaki, hybr. nov. (*P. jama-sakura* × *P. incisa* var. *kinkiensis*)

Arbuscula. Ramuli graciles glabri dilute fuscescentes vel dilutissime cinerascenti-fusci, lenticellis parvis. Folia juvenilia intense rubro-purpurascencia vel atrorubro-purpurascencia basi flavo-virentia. Squamae gemmarum floriferarum; exteriores ca. 9 durae, triangulariter ovatae, 3-6 mm longae 2-4 mm latae, castaneo-ferrugineae lucidae; interiores ca. 5 molles, spathulato-oblongatae, 9-12 mm longae 4-5 mm latae, rubrissimae vel fuscescenti-rubrae, intus pilosae extus glabrae lucidissimae, intimis ca. 2 pallide virentibus apicibus atrorubiginosis intus pilosis extus lucidissimis. Flores subcoetanei 2 vel 3 corymbosi. Pedunculi 5-10 mm longi glabri viridi vel dilute viridi. Pedicelli ca. 15 mm longi, viridescentes interdum ex apice atrofuscescentes, paucissime patente pilosi. Bractee late spathulatae spathulato-obovatae vel anguste-spathulatae interdum inaequales, 5-8 mm longae 3.5-5 mm latae, extus glabrae intus saepe pilosae, virentes sed prope basin pallidae. Calycis tubus cylindratus gracilis, apice paullo dilatatus, ca. 8 mm longus glaber, ex apice dilute viridescenti-fuscus vel atrorubescens basi atrovirens. Calycis lobi ovati apice acuti margine irregulariter crenati, ca. 4 mm longi 2.5 mm lati, virides vel atrorubro-fuscescentes, utrinque glabri. Petala 5 late ovata apice emarginata, ca. 13.5 mm longa 11.5 mm lata, candida interdum apice dilutissime rosea. Stamina ca. 36, filamentis ca. 6 mm longis candidis demum roseolis. Pistillum 13-14 mm longum, stylo ca. 12 mm longo glabro, ovario ca. 2 mm longo glabro. Lamina folii adulti anguste obovata vel oblongo-oblongata, 6-11 cm longa 3-4.5 cm lata, apice caudato-acuminata, basi vulgo obtusa interdum paullo rotundata, margine duplicato-serrulata, utrinque ca. 10 venosa, supra viridis vel flavo-virens sine luce sparsim pilosa, infra glaucescens sine luce secus venas paucissime pilosa. Petioli ca. 12 mm longi viridescentes albide pilosi, vulgo basi laminae interdum apice petioli 2 glandulis parvis atrorubro-purpurascensibus instructi. Drupa paucissima fere orbiculata, 9 mm longa 8 mm lata nigra.

Nom. Jap. Kinki-yama-mame-zakura, nom. nov.

Hab. in sylvis montis Ibuki, prov. Ohmi (T. Kawasaki, Apr. 16, 1970-typus in Herb. Nat. Sci. Mus. Tokyo.)